

(英語版)

(アラビア語版)

令和四年二月

## イエメン・フーシ派の攻撃で泥沼に陥ったUAE

### 1. ドローン攻撃で浮足立つUAE

一月十七日、アラブ首長国連邦(UAE)の首都アブダビの空港及び国営石油会社(ADNOC)の油槽所で相次いで爆発事故が発生、3人が死亡、6人が負傷した。イエメン反政府組織フーシ派が犯行声明を発表、攻撃は弾道ミサイルあるいはドローン(無人攻撃機)によるものであった<sup>1</sup>。1月初めにはイエメン沖合のソコトラ島からサウジアラビアのJazana港に向かっていたUAE船籍の貨物船が紅海でフーシ派にハイジャックされる事件が発生している。2015年以来イエメン内戦ではサウジアラビア、UAEを含む有志連合軍がハディ大統領率いる政府勢力を支援するためフーシ派に対する空爆を行っている。これに対してフーシ派は国境を接するサウジアラビア南部をミサイル及びドローンで攻撃していたが、UAEの領土を直接攻撃したのはこれが初めてである。

アブダビのアル・ダフラ空軍基地には米国とフランス空軍が駐留しており、また同国が世界有数の産油国であることから、事件は国際的な反響を呼んだ。UAEはF16戦闘機でイエメンのミサイル発射基地に報復爆撃を行った<sup>2</sup>。さらに同国は国連安保理に提訴するとともに<sup>3</sup>、アブダビ皇太子(実質的なUAEの指導者)は急遽米国のオースチン国防長官と電話会談を行っている<sup>4</sup>。UAEのあわてぶりがうかがえる。

### 2. イエメン内戦へのUAEの関与

2011年のアラブの春でサーレハ大統領(当時)が失脚したイエメンは、その後北部を支配するフーシ部族(フーシ派)と首都サナアのハディ大統領を中心とする勢力(政府派)が対立、2015年には本格的な内戦に発展した。劣勢の政府派は首都サナアを放棄してアデンに撤退、さらにアデンに戦火が及ぶと大統領以下政府首脳はサウジアラビアに避難するありさまとなった。このためサウジアラビアはUAE、スーダンなどスンニ派アラブ数か国を巻き込んで有志連合軍を結成し支援に乗り出した。

Brigadeと呼ばれる現地部隊に軍事支援を行うにとどまっている。なお一月にハイジャックされたUAE船籍の貨物船はソトラ島からサウジ南部の港に向かっていたものであり、UAEは積み荷が人道支援物資であったと主張しているが、武器を積載していた可能性は否定できない。

### 3. フーシ派の有志連合軍叩き

地上戦では優勢なフーシ派であったが、有志連合軍の空爆に対してはなすすべがなく、最近では南部独立派を含む政府勢力が首都サナア奪還を目指すほど形勢が変化している。このためフーシ派は有志連合軍を直接攻撃する戦略を併用、サウジ経済の心臓部である東部の油田地帯を弾道ミサイルあるいはドローンで攻撃したことに加え、最近ではサウジ西南部の都市アブハ、ジザンなどに度重なる攻撃を行っている。これに対してサウジ側は米国製パトリオットミサイルで迎撃している。有志連合軍の発表によれば、サウジアラビアは過去5年間に誘導ミサイル400発、ドローン850発の攻撃に晒され、市民の犠牲は59人に達したと述べている。サウジ市民にとってフーシ派による空襲は日常的出来事(normal thing)なのである。



そして冒頭に述べた通りここに来てフーシ派はUAEを新たな標的に加えたのである。これはドローンの性能向上が大きな役割を果たしている。フーシ派の最新型ドローンSaad-3型は18キロの爆薬を積み射程千五百KM、GPSによりあらかじめ設定された目標を正確にとらえることができると言われる。イエメン領内から、2アブダビの油槽所あるいは空港を直接攻撃することが可能なのである。

もちろんUAE側も2011年には35億ドルを投じて米ロッキード製ミサイル防御システムを導入しており、フーシ派の弾道ミサイルを迎撃している。しかしこれは高空から高速で飛来するミサイルを迎撃するためであり、低空・低速のドローンの迎撃には不向きである。まして一発四百万ドル前後もするパトリオットミサイルに比べ、ドローンは数十分の一の費用で済む。UAEあるいはサウジアラビアにとって費用対効果の面では割に合わないようである。結局笑うのは米国のパトリオットミサイルメーカーだけであろう。

### 4. 今後の動きは？

UAEは湾岸GCC諸国の中で比較的安全な国と言われてきた。ドバイが中東のハブとなり、商業都市、観光都市として世界中からヒトとモノが集まるようになったのもそのおかげである。ちなみに世界平和指数によればUAEは世界四十一位である。サウジアラビア(世界128位)に比べ圧倒的に優れている。そのUAEが爆撃されたことでUAE自身はおろか世界中が驚愕している。

UAEは国連に提訴し、またアブダビ皇太子が米国防長官と電話協議を行った。しかしバイデン政権はアフガニスタン問題あるいはロシア危機によるLNG安定供給問題でUAEよりもカタルを重視する姿勢を見せている。同国首長を一月末にホワイトハウスに招いて協議していることを見ても明らかである<sup>10</sup>。

UAEの実権を握るアブダビのムハンマド・ビン・ザイド皇太子(通称 MBZ)は、どちらかと言えば武闘派(急進派)と言えよう。リビアに派兵し、あるいはカタル制裁問題では先頭を切って断交に踏み切っていることでも明らかである。従って自国への攻撃を止めさせるためにイエメンのフーシ派と妥協するとは考えにくい。豊富な資金力で今後もイエメン政府軍を支援し、フーシ派のミサイル及びドローン攻撃に対しては迎撃能力を高めるものと思われる。

その点で注目されるのがイスラエルとの関係であろう。UAEは一昨年アブラハム合意によりイスラエルと国交を樹立した。そしてつい最近、イスラエル大統領がUAEを公式訪問している。まさにその時、アブダビはミサイル及びドローン攻撃を受けており<sup>11</sup>、防衛問題が取り上げられたことは間違いない。イスラエルはパレスチナあるいはシリアのミサイルやロケット砲の攻撃に対してアイアンドームと呼ばれる、文字通りの鉄壁の防御網を備えている。またハイテク先進国として高性能ドローンの開発では世界一ともいえよう。先制攻撃こそ最大の防御と考えているイスラエルにとってアイアンドームと高性能ドローンは不可分一体である。UAEはこれらを自国に導入したいと考えているはずである。イスラエルはアイアンドーム<sup>3</sup>の輸出には慎重であるが、ドローン輸出による外貨獲得の誘惑は強いと思われる。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

[Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)

<sup>1</sup> Blasts near Abu Dhabi airport, oil facility kill 3, Houthis claim drone attack

<https://www.dailysabah.com/world/mid-east/blasts-near-abu-dhabi-airport-oil-facility-kill-3-houthis-claim-drone-attack>

2022/1/17 Daily Sabah

<sup>2</sup> UAE confirm missile launcher site in Yemen destroyed after second attack on Abu Dhabi

<https://www.arabnews.com/node/2010481/middle-east>



